

第113回甲府西高同窓会定期総会 第1部 次第

日時 平成29年5月14日(日)

9時30分受付

10時30分開会

場所 甲府富士屋ホテル

- 1 開会のことば
- 2 物故 恩師・会員に黙祷
- 3 同窓会長あいさつ
- 4 学校長あいさつ
- 5 議長選出
- 6 議 事
 - (1) 平成28年度 事業報告
 - (2) 平成28年度 会計報告
 - (3) 第112回定期総会 会計報告
 - (4) 会計監査報告
 - (5) 役員改選・新役員委嘱
 - (6) 平成29年度 事業計画(案)
 - (7) 平成29年度 予算(案)
 - (8) 第113回定期総会 予算(案)
 - (9) その他
- 7 議長解任
- 8 感謝状並びに記念品贈呈
- 9 新入会員紹介・花束贈呈(高69回生)
- 10 傘寿の祝い(高8回生)
- 11 次期 第114回定期総会当番回生へ引継ぎ(高27回生)
- 12 閉会のことば

平成28年度 事業報告書

平成28年

4月8日 母校入学式 会長出席

5月15日 第112回同窓会定期総会 於 富士屋ホテル

第1部 総会

出席者692名 総会誌・第19号会報配布

- 1 平成27年度事業報告と会計報告及び監査報告
- 2 平成28年度事業計画案及び予算案提出 承認される
- 3 高7回生の出席者30名に傘寿記念品贈呈
- 4 次期当番回生への引き継ぎ

第2部 懇親会 アトラクション

- 1 甲府西高音楽部合唱
- 2 五緒川津平太・名執瞭子のトークショー

5月21日 西高吹奏学部定期演奏会 於 コラニー文化ホール 会長出席 祝金贈呈

5月22日 東京支部総会 出席者120名 於 東京高輪プリンスホテル

顧問・正副会長出席 祝金贈呈

6月6日 第1回常任理事会 於 鳳凰館

- 1 新年度の事業について
- 2 第112回定期総会報告
- 3 第113回定期総会への要望
- 4 各部の報告、今年度活動計画など

6月11日 第54回西美会展（6月11日～6月17日） 於 県立美術館 会長出席 祝金贈呈

6月20日 第1回理事会 於 鳳凰館

- 1 新年度の事業について
- 2 第112回定期総会報告
- 3 第113回定期総会（平成29年5月14日）への要望
- 4 各部の報告、活動計画

7月2日 鳳凰祭オープニング 於 文化ホール 副会長出席 祝金贈呈

9月15日 第2回理事会 於 鳳凰館

講演会【朗読音楽会『いいもんだ』】千頭和直輝・萩原 舞

- 1 レクリエーションについて、申し込み受付

10月11日 第3回理事会 於 鳳凰館

レクリエーション申し込み受付と会費集金

- 1 第113回定期総会の進捗状況
- 2 平成29・30年度の役員改選について

10月18日 レクリエーション・同窓会バスの日旅 参加45名

【上田城跡《真田丸大河ドラマ館》】

11月14日 第2回(臨時)常任理事会 於 鳳凰館

- 1 役員改選について
- 2 会計書式について
- 3 第112回定期総会の決算報告並びに第113回定期総会の予算について
- 4 レクリエーションの報告 ※レクリエーションは当分休止

平成29年

- 1月7日 第3回常任理事会・新年互礼会 於 談露館
- 1 平成29年度事業について
 - 2 レクリエーションの反省と会計報告
 - 3 年末助け合い募金総額117,890円。学校へ教育振興費30,000円、山日に87,890円を届ける。
 - 4 長坂会長勇退挨拶
- 2月6日 第4回常任理事会
- 1 平成29年度の事業について
 - 2 第112回定期総会の会計報告
 - 3 同窓会事務室内設置印刷機等の機器購入について
 - 4 卒業記念品及び同窓会入会式・卒業式について
 - 5 第113回定期総会の進捗状況について
同窓会入会式の打ち合わせ
- 2月6日 第4回理事会 於 鳳凰館
総会チケット配布
- 1 平成29年度の事業について
 - 2 第112回定期総会の会計報告
 - 3 レクリエーション実施状況と会計報告・レクの休止について
 - 4 歳末助け合い募金について
 - 5 卒業記念品及び同窓会入会式・卒業式について
 - 6 第113回定期総会の進捗状況について
 - 7 同窓会事務室内設置印刷機等の機器購入について
- 2月28日 同窓会入会式 於 西高体育館 正副会長以下役員19名出席
- 第5回常任理事会 於 富士屋ホテル
- 1 第113回定期総会の役割分担について
 - 2 事務室内設置機器等の使用方法等について
- 3月1日 卒業証書授与式 会長・副会長出席
- 3月23日 第6回常任理事会 於 鳳凰館
総会チケット回収と会費集金
- 1 平成28年度事業報告及び決算報告
 - 2 平成29年度の事業計画（案）及び予算（案）について
 - 3 第113回定期総会の進捗状況について
- 4月3日 第5回理事会 於 鳳凰館
総会チケット最終回収
- 1 平成28年度事業報告と決算及び監査報告
 - 2 平成29年度の事業計画（案）及び予算（案）について
 - 3 第113回定期総会の進捗状況について
 - 4 在校生への奨学金制度について

※ その他執行部・各部会は会議を年間数回実施して会の運営にあたる

平成28年度 同窓会収支計算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

収 入 総 額	支 出 総 額	差 引 額
4,673,045	4,296,198	376,847

収入の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
前年度繰越金	1,128,266	1,128,266	0	
会 費	2,400,000	2,270,000	130,000	新会員会費10,000円×227名
寄 付 金	0	0	0	
雑 収 入	1,000	1,274,779	△1,273,779	総会残金750,067、 レクリエーション残金19,256、利息29、 定期解約500,427、その他
収 入 合 計	3,529,266	4,673,045	△1,143,779	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
謝 礼 金	40,000	30,000	10,000	講演会謝礼
旅 費	40,000	29,900	10,100	支部総会
消 耗 品 費	50,000	61,062	△ 11,062	事務用品等
記 念 品 代	270,000	227,000	43,000	卒業生227人分記念品
会 議 費	400,000	331,412	68,588	常任理事会、専門部活動
印 刷 製 本 費	350,000	340,200	9,800	会報等印刷
通 信 運 搬 費	100,000	78,022	21,978	理事会等の通知
手 数 料	30,000	22,464	7,536	銀行貸金庫、残高証明手数料等
教 育 振 興 費	1,200,000	1,000,000	200,000	学校協力費
雑 費	30,000	5,400	24,600	
慶 弔 費	30,000	30,000	0	元校長神田様、川手様
寄 付 金	150,000	80,000	70,000	支部総会、各種催事祝金
事 業 費	350,000	300,000	50,000	総会準備金、レクリエーション補助
同窓会積立金	450,000	450,000	0	
固定資産取得費	0	1,310,738	△1,310,738	レンジラック、印刷機、コピー機、書庫他
予 備 費	39,266	0	39,266	
支 出 合 計	3,529,266	4,296,198	△766,932	

平成28年度 同窓会収支計算書

現 金	93,800
普 通 預 金	283,047
定 期 預 金	26,748,206

上記の通り報告いたします。

平成29年3月31日

会計担当 宝方みづほ (宝方) 田村 昭子 (田村)

安達映美 (安達) 土屋 和子 (土屋)

望月かすみ (望月)

厳正に監査の結果、諸帳簿、証票ともに適正に処理されていたことを確認しました。

平成29年4月9日

会計監査員 久保嶋 仁 (久保嶋)

塩島 正文 (塩島)

第112回 同窓会定期総会収支計算書

収 入 総 額	支 出 総 額	差 引 額
7,097,579	6,347,512	750,067

収入の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
広告・協賛金	3,000,000	3,437,436	△ 437,436	企業、会員等からの広告、協賛金
総会会員券	3,000,000	3,395,000	△ 395,000	会費収入 5,000円×679枚
総会準備金	200,000	200,000	0	本会より補助
雑 収 入	50,000	65,143	△ 15,143	祝金、利息等
収 入 合 計	6,250,000	7,097,579	△ 847,579	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
謝 礼 金	500,000	498,193	1,807	アトラクション諸経費
消 耗 品 費	50,000	95,444	△ 45,444	事務用品等
印刷製本費	950,000	1,020,103	△ 70,103	総会誌、会員券、写真代等
通 信 費	50,000	123,428	△ 73,428	来賓案内状、連絡通信費
記 念 品 代	300,000	242,135	57,865	傘寿の祝記念品、来賓の方への記念品
広 告 費	220,000	227,340	△ 7,340	山梨日日新聞広告掲載料
会 場 費	4,100,000	4,077,073	22,927	総会、懇親会会場費、食事代等
会 議 費	40,000	30,094	9,906	実行委員会会議費
予 備 費	40,000	33,702	6,298	銀行振込手数料等
支 出 合 計	6,250,000	6,347,512	△ 97,512	

上記の通り報告いたします。

平成29年4月9日

実行委員長 長田 美沙子 (長田 美沙子)

会 計 部 長 沢野 利江 (沢野 利江)

会計副部長 早川 晶子 (早川 晶子)

厳正に監査の結果、諸帳簿、証票ともに適正に処理されていたことを確認しました。

平成29年4月9日

会計監査員 不保嶋 仁 (不保嶋 仁)

会計監査員 塩島 正文 (塩島 正文)

平成28年度 事業報告 企画部

講演会 9月15日(木) 13:30~14:30 於 鳳凰館

朗読音楽会 『いいもんだ』

朗 読 智頭和 直 輝さん (高59回生)

マリンバ 萩 原 舞さん (高65回生)

森の中で仲良く暮らしていたかえでとけやき、ある日悲しい別れが… 目まぐるしく変化する「時の流れ」に戸惑った時、そっと背中を押してくれる柔らかく暖かなお話が、萩原さんのマリンバの演奏にのせて朗読されました。智頭和さんの優しい声の響きと聞き終わった後の余韻に、皆さんとても感激しておられました。



レクリエーション 10月18日(火)

『真田宝物館と真田丸大河ドラマ館』の旅

天候にも秋の味覚にも恵まれた同窓会一日バスの旅。男性会員の参加もありました。ガイドさんの楽しい会話に笑いの絶えない、甲女・二高・西高と回生を超えての楽しい旅でした。



平成29年度 事業計画書(案)

1. 第113回定期総会の開催と第114回定期総会の準備

総会は同窓会の一大事業として、実行委員会に付託し、世代を超えた多くの同窓生が参加し、交流と親睦を深める場とする。

2. 理事会及び常任理事会の開催と会議録の作成

理事会、常任理事会など、諸会議の通知はもとより、会議内容、決定事項は会議録に残し、保管する。甲府西高同窓会HPに日程を掲載する。

3. 会報の発行と配布

会報は同窓会及び同窓生の活動を伝えるために、内容の充実に努め、会員に愛され喜ばれる誌面にする。そのために各専門部や各支部から多角的に記事を集め、編集する。配布は入会式、総会で行う。

4. 回生の活動

各理事を中心にした回生毎の活動では、会報並びに「110周年記念DVD」等を有効に活用し、本会との連携を密にする。

5. 講演会の開催

講演会の実施や各種イベントの開催等を行い、同窓生のなお一層の親睦を図る。

6. 学校行事への参加と協力

同窓生のキャリアを生かして、学校行事には積極的に参加・協力し、在校生との交流を図る。

7. 教育振興会への援助

教育振興会を通して、学校施設の充実と在校生の教育活動を支援する。

8. 同窓生名簿の管理

同窓生の住所変更等の異動については、各回生からの連絡を受けた都度、速やかに処理する。

9. 奨学金の贈呈

奨学金を贈呈して、母校の生徒の勉学を支援する。

平成29年度 同窓会収支予算書(案)

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

収 入 総 額	支 出 総 額	差 引 額
2,957,847	2,957,847	0

収入の部

(単位:円)

科 目	29年度予算額	28年度予算額	増 減	備 考
前年度繰越金	376,847	1,128,266	△ 751,419	
会 費	2,330,000	2,400,000	△ 70,000	新会員会費10,000円×233名
寄 付 金	0	0	0	
雑 収 入	251,000	1,000	250,000	定期預金から250,000円、預金利息等
収 入 合 計	2,957,847	3,529,266	△ 571,419	

支出の部

科 目	29年度予算額	28年度予算額	増 減	備 考
謝 礼 金	70,000	40,000	30,000	講師謝礼
旅 費	40,000	40,000	0	支部総会費等
消 耗 品 費	60,000	50,000	10,000	事務用品等
記 念 品 代	233,000	270,000	△ 37,000	卒業記念品
会 議 費	400,000	400,000	0	常任理事会、専門部活動
印 刷 製 本 費	350,000	350,000	0	会報等印刷
通 信 運 搬 費	100,000	100,000	0	理事会等通知
手 数 料	30,000	30,000	0	銀行貸金庫、残高証明手数料等
教 育 振 興 費	1,000,000	1,200,000	△ 200,000	学校協力費
雑 費	10,000	30,000	△ 20,000	
慶 弔 費	30,000	30,000	0	
寄 付 金	100,000	150,000	△ 50,000	支部総会、各種催事祝金
事 業 費	500,000	350,000	150,000	総会準備金、奨学金50,000円×5名
同 窓 会 積 立 金	0	450,000	△ 450,000	
予 備 費	34,847	39,266	△ 4,419	
支 出 合 計	2,957,847	3,529,266	△ 571,419	

第113回 同窓会定期総会収支予算書(案)

収 入 総 額	支 出 総 額	差 引 額
6,250,000	6,250,000	0

<収入の部>

(単位：円)

科 目	29年度予算額	28年度予算額	増 減	備 考
広告・協賛金	3,000,000	3,000,000	0	企業、会員等からの広告・協賛金
総会会員券	3,000,000	3,000,000	0	会費収入 5,000円×600枚
総会準備金	200,000	200,000	0	本会より補助
雑 収 入	50,000	50,000	0	祝金、利息等
合 計	6,250,000	6,250,000	0	

<支出の部>

(単位：円)

科 目	29年度予算額	28年度予算額	増 減	備 考
謝 礼 金	500,000	500,000	0	アトラクション諸経費
消 耗 品 費	50,000	50,000	0	事務用品費
印刷製本費	950,000	950,000	0	総会誌・会員券・写真代等
通 信 費	50,000	50,000	0	来賓案内状、連絡通信費
記 念 品 代	300,000	300,000	0	傘寿・来賓の記念品代
広 告 費	220,000	220,000	0	山梨日日新聞広告掲載料
会 場 費	4,100,000	4,100,000	0	総会・懇親会会場費・食事代等
会 議 費	40,000	40,000	0	実行委員会会議費
予 備 費	40,000	40,000	0	銀行振込手数料等
合 計	6,250,000	6,250,000	0	

同窓会役員

平成29年度

甲府西高同窓会

平成29年4月3日現在

役 職	氏 名
顧問 校長	斉 木 邦 彦
〃 教 頭	河 手 由美香
校内 総務	渡 辺 久 弥
〃 理 事	名 取 美和子
〃	朱膳寺 利 枝
〃	向 山 直 貴

役 職	回 生	氏 名	役 職	回 生	氏 名
顧問	高3	一 木 麗 子	常任理事	高25	長 田 美沙子
〃	高14	長 坂 光 子	〃	高27	長 倉 美 穂
会 長	高15	坂 本 悦 子	〃	高38	山 縣 正 道
副 会 長	高17	羽 田 喜久枝	会計監査	高30	久保嶋 仁
〃	高30	石 原 敬 彦	〃	高30	塩 島 正 文 子
〃	高31	上 原 重 樹	実行委員長	高27	日下部 俊 子
〃	高31	東 條 正 人			
〃	高36	入 倉 要			
東京支部長	甲女36	山 口 ひさか	理 事	甲女38	林 俊 子
常任理事	甲女41	梅 本 民 子	〃	甲女38	浅 川 たかね
〃	高3	小 林 美佐代	〃	甲女40	山 本 昭 子
〃	高8	畔 柳 浩 子	〃	甲女40	名 取 ふ さ
〃	高14	松 本 さか江	〃	甲女40	宮 澤 多津子
〃	高16	宝 方 みづほ	〃	甲女42	志 村 和
〃	高18	藤 原 静	〃	甲女42	京ヶ島 民 子
〃	高18	新 海 宏 子	〃	甲女42	古 沢 なつき
〃	高18	窪 島 満喜子	〃	甲女42	渡 辺 清 子
〃	高18	安 達 映 美	〃	甲女43	堀 内 淳 子
〃	高19	浅 尾 三枝子	〃	甲女43	有 馬 操
〃	高20	土 屋 和 子	〃	甲女44	荻 原 ミツ子
〃	高20	小 野 成 美	〃	甲女44	小 林 英 子
〃	高21	小 川 けい子	〃	高1	相 川 英 子
〃	高22	大久保 はるみ	〃	高1	菊 島 美佐子
〃	高23	長谷部 澄 子	〃	高2	深 沢 はるみ
〃	高23	望 月 かつみ	〃	高2	渡 辺 可 子
〃	高24	久津間 恵理子	〃	高3	小 林 英 子

役 職	回 生	氏 名
理 事	高 3	土 屋 美代子
〃	高 4	新 堀 明 子
〃	高 4	越 石 惟 子
〃	高 5	鶴 田 初 江
〃	高 5	伊 藤 幸 子
〃	高 5	中 沢 勝 子
〃	高 6	今 澤 良 子
〃	高 6	近 藤 たま乃
〃	高 6	今 村 兼 子
〃	高 7	荒 木 波満子
〃	高 8	古 屋 敏 子
〃	高 9	武 井 ゆり子
〃	高 9	田之口 邦 子
〃	高10	有 泉 志づ子
〃	高10	後 藤 武 子
〃	高10	青 島 洋 子
〃	高11	青 柳 八重子
〃	高11	植 原 紀 子
〃	高12	薬 袋 寿 子
〃	高12	磐 上 百合子
〃	高13	松 本 千代子
〃	高13	畑 野 純 子
〃	高14	伊 藤 美津恵
〃	高14	中 込 良 子
〃	高14	中 島 美智子
〃	高14	米 山 紀 子
〃	高15	早 川 直 美
〃	高15	馬杉田 鶴 枝
〃	高16	河 住 明 美
〃	高16	志 村 保 子
〃	高17	上 野 美知子
〃	高17	中 野 静 子
〃	高17	鈴 木 きく子
〃	高17	廣 瀬 洋 子
〃	高18	清 水 淳 子
〃	高18	土 屋 美 江
〃	高19	岡 部 圭 子
〃	高19	熊 木 俊 子
〃	高19	大 木 節 子
〃	高20	山 本 みや子

役 職	回 生	氏 名
理 事	高20	中 島 美恵子
〃	高20	広 瀬 照 子
〃	高21	仲 澤 マチ子
〃	高21	依 田 よし子
〃	高21	村 松 昭 子
〃	高22	小 林 和 子
〃	高23	地 場 裕 子
〃	高23	中 込 千 春
〃	高23	沢 登 美千子
〃	高23	清 水 公 子
〃	高24	塚 崎 淳 子
〃	高24	桂 嶋 恵 美
〃	高25	市ノ瀬 佐知子
〃	高25	藤 井 品 子
〃	高25	若 月 財 子
〃	高26	窪 田 淳 子
〃	高26	前 田 洋 子
〃	高26	木浦原 秀 子
〃	高26	中 村 一 枝
〃	高26	今 津 信 子
〃	高27	宮 川 由美子
〃	高27	小 野 節 子
〃	高27	古 屋 真紀子
〃	高28	長 田 尚 美
〃	高28	向 井 早 苗
〃	高28	長 澤 伸 子
〃	高28	戸 田 みき子
〃	高29	青 山 和 子
〃	高29	一 瀬 晴 美
〃	高30	深 川 和 彦
〃	高30	猪 股 尚 幸
〃	高30	橘 田 正 豊
〃	高30	伴 野 明 二
〃	高30	高 野 恵 三
〃	高31	赤 池 浩 明
〃	高31	清 田 貴 子
〃	高31	近 山 紀 易
〃	高31	神宮司 潤
〃	高33	仲 澤 宏 満
〃	高33	赤 池 宏 満

役 職	回 生	氏 名
理 事	高34	野 村 章
〃	高34	田 中 博
〃	高34	坂 本 一 之 仁
〃	高34	市 川 正 仁
〃	高35	八 卷 一 仁
〃	高35	井 上 雅 博
〃	高35	朱 宮 栄 史
〃	高35	石 原 貴 仁
〃	高35	丹 澤 寛 幸
〃	高36	堤 明 伸 仁
〃	高36	神 山 祐 仁
〃	高36	北 条 繁 寿 子
〃	高37	横 森 優 章
〃	高37	野 澤 昌 昭
〃	高37	堀 田 一 信
〃	高37	七 澤 昌 武 久
〃	高37	小 尾 治 男
〃	高37	斉 木 晃 朗
〃	高38	遠 山 塚 秀 人
〃	高38	平 塚 澤 千 昭
〃	高39	北 清 水 雅 弘
〃	高39	藤 島 秀 仁
〃	高40	清 水 尚 美
〃	高40	新 津 文 香
〃	高40	内 藤 良 一 彦
〃	高41	山 内 利 美
〃	高42	若 林 真 法 男
〃	高43	川 口 充 邦
〃	高43	井 上 嶋 充 邦
〃	高44	前 嶋 山 陽 子
〃	高45	杉 井 真 学 弓
〃	高45	永 萩 鈴 木 子 也
〃	高46	萩 鈴 木 子 也
〃	高46	金 藤 子 井 川 口 本
〃	高47	藤 樋 海 関
〃	高47	高48
〃	高48	高49

役 職	回 生	氏 名
理 事	高50	佐々木 壮 一
〃	高51	金 丸 浩 司
〃	高51	進 藤 敬 子
〃	高52	浅 利 慶 太
〃	高52	深 沢 明 美
〃	高53	上 田 浩 司
〃	高54	坂 本 勇 太
〃	高54	終 沢 芳 美
〃	高55	今 村 友 一
〃	高55	藤 原 麻 帆
〃	高55	向 山 憲 稔
〃	高56	波田 野 健 人
〃	高56	丸 山 茂 葉
〃	高57	丸 茂 総 太
〃	高57	鈴 木 歩 美
〃	高58	水 上 拓 紀
〃	高58	樋 川 夏 未
〃	高59	村 松 匠 美
〃	高59	内 藤 麻 美
〃	高60	望 月 成 陽
〃	高60	野 田 邊 敬 太
〃	高61	渡 矢 崎 理 沙
〃	高62	渡 辺 健 司
〃	高62	斉 藤 わ かな
〃	高63	一 場 雄 樹
〃	高63	八 卷 菜 保 子
〃	高64	横 山 俊 樹
〃	高64	西 木 大 愛
〃	高65	青 野 内 詩 志
〃	高65	横 内 味 永 音
〃	高66	五 樋 口 林 陽
〃	高66	小 松 下 恭 平
〃	高67	松 笹 本 冠 真
〃	高68	栗 松 士 大
〃	高69	寺 井 瑞 河
〃	高69	寺 井 瑞 河

同窓会役員

平成29年度

甲府西高同窓会

平成29年4月3日現在

役 職	氏 名
顧問 校長	斉 木 邦 彦
〃 教 頭	河 手 由美香
校内 総務	渡 辺 久 弥
〃 理 事	名 取 美和子
〃	朱膳寺 利 枝
〃	向 山 直 貴

役 職	回 生	氏 名	役 職	回 生	氏 名
顧問	高3	一 木 麗 子	常任理事	高25	長 田 美沙子
〃	高14	長 坂 光 子	〃	高27	長 倉 美 穂
会 長	高15	坂 本 悦 子	〃	高38	山 縣 正 道
副 会 長	高17	羽 田 喜久枝	会計監査	高30	久保嶋 仁
〃	高30	石 原 敬 彦	〃	高30	塩 島 正 文 子
〃	高31	上 原 重 樹	実行委員長	高27	日下部 俊 子
〃	高31	東 條 正 人			
〃	高36	入 倉 要			
東京支部長	甲女36	山 口 ひさか	理 事	甲女38	林 俊 子
常任理事	甲女41	梅 本 民 子	〃	甲女38	浅 川 たかね
〃	高3	小 林 美佐代	〃	甲女40	山 本 昭 子
〃	高8	畔 柳 浩 子	〃	甲女40	名 取 ふ さ
〃	高14	松 本 さか江	〃	甲女40	宮 澤 多津子
〃	高16	宝 方 みづほ	〃	甲女42	志 村 和
〃	高18	藤 原 静	〃	甲女42	京ヶ島 民 子
〃	高18	新 海 宏 子	〃	甲女42	古 沢 なつき
〃	高18	窪 島 満喜子	〃	甲女42	渡 辺 清 子
〃	高18	安 達 映 美	〃	甲女43	堀 内 淳 子
〃	高19	浅 尾 三枝子	〃	甲女43	有 馬 操
〃	高20	土 屋 和 子	〃	甲女44	荻 原 ミツ子
〃	高20	小 野 成 美	〃	甲女44	小 林 英 子
〃	高21	小 川 けい子	〃	高1	相 川 英 子
〃	高22	大久保 はるみ	〃	高1	菊 島 美佐子
〃	高23	長谷部 澄 子	〃	高2	深 沢 はるみ
〃	高23	望 月 かつみ	〃	高2	渡 辺 可 子
〃	高24	久津間 恵理子	〃	高3	小 林 英 子

役 職	回 生	氏 名
理 事	高 3	土 屋 美代子
〃	高 4	新 堀 明 子
〃	高 4	越 石 惟 子
〃	高 5	鶴 田 初 江
〃	高 5	伊 藤 幸 子
〃	高 5	中 沢 勝 子
〃	高 6	今 澤 良 子
〃	高 6	近 藤 たま乃
〃	高 6	今 村 兼 子
〃	高 7	荒 木 波満子
〃	高 8	古 屋 敏 子
〃	高 9	武 井 ゆり子
〃	高 9	田之口 邦 子
〃	高10	有 泉 志づ子
〃	高10	後 藤 武 子
〃	高10	青 島 洋 子
〃	高11	青 柳 八重子
〃	高11	植 原 紀 子
〃	高12	薬 袋 寿 子
〃	高12	磐 上 百合子
〃	高13	松 本 千代子
〃	高13	畑 野 純 子
〃	高14	伊 藤 美津恵
〃	高14	中 込 良 子
〃	高14	中 島 美智子
〃	高14	米 山 紀 子
〃	高15	早 川 直 美
〃	高15	馬杉田 鶴 枝
〃	高16	河 住 明 美
〃	高16	志 村 保 子
〃	高17	上 野 美知子
〃	高17	中 野 静 子
〃	高17	鈴 木 きく子
〃	高17	廣 瀬 洋 子
〃	高18	清 水 淳 子
〃	高18	土 屋 美 江
〃	高19	岡 部 圭 子
〃	高19	熊 木 俊 子
〃	高19	大 木 節 子
〃	高20	山 本 みや子

役 職	回 生	氏 名
理 事	高20	中 島 美恵子
〃	高20	広 瀬 照
〃	高21	仲 澤 マチ子
〃	高21	依 田 よし子
〃	高21	村 松 昭 子
〃	高22	小 林 和 子
〃	高23	地 場 裕 子
〃	高23	中 込 千 春
〃	高23	沢 登 美千子
〃	高23	清 水 公 子
〃	高24	塚 崎 淳 子
〃	高24	桂 嶋 恵 美
〃	高25	市ノ瀬 佐知子
〃	高25	藤 井 品 子
〃	高25	若 月 財 子
〃	高26	窪 田 淳 子
〃	高26	前 田 洋 子
〃	高26	木浦原 秀 子
〃	高26	中 村 一 枝
〃	高26	今 津 信 子
〃	高27	宮 川 由美子
〃	高27	小 野 節 子
〃	高27	古 屋 真紀子
〃	高28	長 田 尚 美
〃	高28	向 井 早 苗
〃	高28	長 澤 伸 子
〃	高28	戸 田 みき子
〃	高29	青 山 和 子
〃	高29	一 瀬 晴 美
〃	高30	深 川 和 彦
〃	高30	猪 股 尚 幸
〃	高30	橘 田 正 明
〃	高30	伴 野 恵 二
〃	高30	高 野 浩 三
〃	高31	赤 池 明 子
〃	高31	清 田 貴 紀
〃	高31	近 山 易
〃	高31	神宮司 潤
〃	高33	仲 澤 宏 満
〃	高33	赤 池 宏 満

役 職	回 生	氏 名
理 事	高34	野 村 章
〃	高34	田 中 博
〃	高34	坂 本 一 之 仁
〃	高34	市 川 正 仁
〃	高35	八 巻 一 仁
〃	高35	井 上 雅 博
〃	高35	朱 宮 栄 史
〃	高35	石 原 貴 仁
〃	高35	丹 澤 寛 幸
〃	高36	堤 明 伸 仁
〃	高36	神 山 祐 仁
〃	高36	北 条 繁 寿 子
〃	高37	横 森 優 章
〃	高37	野 澤 昌 昭
〃	高37	堀 田 一 信
〃	高37	七 澤 昌 武 久
〃	高37	小 尾 治 男
〃	高37	斉 木 晃 朗
〃	高38	遠 山 塚 秀 人
〃	高38	平 塚 澤 千 昭
〃	高39	北 清 水 雅 弘
〃	高39	藤 島 秀 仁
〃	高40	清 水 尚 美
〃	高40	新 津 文 香
〃	高40	内 藤 良 一 彦
〃	高41	山 内 利 美
〃	高42	若 林 真 法 男
〃	高43	川 上 充 邦
〃	高43	井 嶋 充 邦
〃	高44	前 嶋 陽 子
〃	高45	杉 山 陽 子
〃	高45	永 井 学 弓
〃	高46	萩 鈴 真 達
〃	高46	金 木 子 政
〃	高47	藤 井 彩
〃	高47	樋 川 勝 一
〃	高48	海 口 憲 一
〃	高49	関 本 知 加

役 職	回 生	氏 名
理 事	高50	佐々木 壮 一
〃	高51	金 丸 浩 司
〃	高51	進 藤 敬 子
〃	高52	浅 利 慶 太
〃	高52	深 沢 明 美
〃	高53	上 田 浩 司
〃	高54	坂 本 勇 太
〃	高54	終 沢 芳 美
〃	高55	今 村 友 一
〃	高55	藤 原 麻 帆
〃	高55	向 山 憲 稔
〃	高56	波田野 健 人
〃	高56	丸 山 葉 子
〃	高57	丸 茂 総 太
〃	高57	鈴 木 歩 美
〃	高58	水 上 拓 紀
〃	高58	樋 上 夏 未
〃	高59	村 松 匠 美
〃	高59	内 藤 麻 美
〃	高60	望 月 成 陽
〃	高60	野 田 邊 敬 太
〃	高61	渡 矢 崎 理 沙
〃	高62	渡 辺 健 司
〃	高62	斉 藤 わ かな
〃	高63	一 場 雄 樹
〃	高63	八 巻 菜 保 子
〃	高64	横 山 俊 樹
〃	高64	西 木 愛 志
〃	高65	青 野 大 詩
〃	高65	横 内 味 永
〃	高66	五 味 口 美 陽
〃	高66	樋 林 下 恭 平
〃	高67	小 松 笹 加 帆
〃	高67	松 本 冠 真
〃	高68	笹 本 冠 真
〃	高68	栗 松 大 河
〃	高69	寺 井 瑞 穂

同窓会会則

第1条 (名称)

本会は、山梨県立甲府西高等学校同窓会と称する。

第2条 (目的)

本会は、会員相互の親睦をはかり、母校との連絡を密にしつつ、進んで相互の向上進歩をはかることを目的とする。

第3条 (組織)

本会は、下記の者をもって組織する。

1. 会員 (1) 普通会員-県立山梨県高等女学校・山梨県立高等女学校・山梨県立第一高等女学校・山梨県立甲府高等女学校の本科並びに専修科・実科の卒業生、補修科・専攻科修了生、併設中学校卒業生、山梨県立甲府第二高等学校、山梨県立甲府西高等学校卒業生

(2) 準会員-本会設立家政研究科修了生及び本校に在籍した者の中の希望者で、2名以上の会員から推薦された者

2. 客員 母校の職員及び旧職員

第4条 (役員)

本会に下記の役員をおき、任期を2ヵ年とする。ただし再選をさまたげない。

1. 会長 (1 名) 会長は、本会を代表し、会務を総括する。選出は理事会の互選により選出し総会の承認を得る。
2. 副会長 (若干名) 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは代行する。選出は理事の中より会長が委嘱する。
3. 事務局長 (1 名) 事務局は、庶務、企画、会計各部と会長副会長との連絡調節、各種記録の保存管理等本会の業務全般の事務処理を担当する。
4. 庶務部長 (1 名) 庶務部は、議事録の作成、行事全般の記録、欠席役員に対しての連絡通達、会報の作成等を担当する。
5. 企画部長 (1 名) 企画部は、講演会、レクリエーション等、同窓会事業の立案、回生対策等を担当する。
6. 会計部長 (1 名) 会計は、一般会計及びその他の会計の金銭管理、事業予算対策及び終身会費の徴収等を担当する。

※ 上記の事務局長、庶務、企画、会計の各部長1名の他、事務局次長2名、各副部長を2名選出する。事務局次長、副部長は、事務局長、部長を補佐し局長部長事故あるときは代行する。事務局長、事務局次長、各部長、副部長の選出を、理事及び理事経験者の中より会長が委嘱する。

7. 常任理事 (若干名) 理事及び理事経験者の中より会長が委嘱する。事務局、庶務、企画、会計の各部門に所属し事務を担当する。

8. 理 事 各回生より選出し会長が委嘱する。諸事項を協議し、本会と回生の連絡に当たる。
9. 校内理事（若干名） 母校の職員から会長が委嘱する。母校と本会との連絡に当たる。
10. 会計監査（2 名） 理事の互薦により選出し、総会の承認を得て会計監査に当たる。
11. 顧 問（若干名） 母校の現職の校長・教頭及び本会の会長であった者は顧問とする。また本会のために特に適当と認められた者は、理事会において推薦し、顧問とする。名誉顧問をおくこともできる。

第 5 条 （総会・入会式）

定期総会は、毎年度できるだけ早期に開催する。但し、必要に応じて臨時総会を開くことができる。新会員入会式は、卒業式の前日に行う。

第 6 条 （役員会）

会長は、必要に応じて常任理事会・理事会を召集する。

第 7 条 （事業）

本会は、次の事業を行う。

（1）会報及び名簿の発行

（2）その他本会の目的達成に関して必要と認められた事業

第 8 条 （決議）

本会の決議は、総会において、出席会員の過半数の同意を得てこれを定める。

第 9 条 （経費）

本会の経費は、入会金・終身会費並びに寄付金をもってこれに当てる。

（1）会員は、入会の際、入会金、終身会費を納入する。

（2）昭和 57 年度以前の会員は、終身会費を納入する。

第 10 条 （会計年度）

本会の会計年度は毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 3 1 日までとする。

第 11 条 （届出事項）

（1）会員は、その住所・氏名に変更があったとき、その他一身上の異動のあったときは、直ちに事務局に通知する。

（2）本会に支部を置くことができる。

（3）会員が本会の後援を必要とする場合は、別紙に必要事項を記載の上、会長に届出、理事会の承認を得る。

第 12 条 会員及び客員の慶弔、その他の件については、別に決めた内規により行う。

付 則 この会則は平成 1 1 年 4 月 2 9 日から施行する。

改訂 平成 16 年 5 月 2 日

改訂 平成 28 年 5 月 15 日

同窓会会則

第1条 (名称)

本会は、山梨県立甲府西高等学校同窓会と称する。

第2条 (目的)

本会は、会員相互の親睦をはかり、母校との連絡を密にしつつ、進んで相互の向上進歩をはかることを目的とする。

第3条 (組織)

本会は、下記の者をもって組織する。

1. 会員 (1) 普通会員-県立山梨県高等女学校・山梨県立高等女学校・山梨県立第一高等女学校・山梨県立甲府高等女学校の本科並びに専修科・実科の卒業生、補修科・専攻科修了生、併設中学校卒業生、山梨県立甲府第二高等学校、山梨県立甲府西高等学校卒業生

(2) 準会員-本会設立家政研究科修了生及び本校に在籍した者の中の希望者で、2名以上の会員から推薦された者

2. 客員 母校の職員及び旧職員

第4条 (役員)

本会に下記の役員をおき、任期を2ヵ年とする。ただし再選をさまたげない。

1. 会長 (1 名) 会長は、本会を代表し、会務を総括する。選出は理事会の互選により選出し総会の承認を得る。
2. 副会長 (若干名) 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは代行する。選出は理事の中より会長が委嘱する。
3. 事務局長 (1 名) 事務局は、庶務、企画、会計各部と会長副会長との連絡調節、各種記録の保存管理等本会の業務全般の事務処理を担当する。
4. 庶務部長 (1 名) 庶務部は、議事録の作成、行事全般の記録、欠席役員に対しての連絡通達、会報の作成等を担当する。
5. 企画部長 (1 名) 企画部は、講演会、レクリエーション等、同窓会事業の立案、回生対策等を担当する。
6. 会計部長 (1 名) 会計は、一般会計及びその他の会計の金銭管理、事業予算対策及び終身会費の徴収等を担当する。

※ 上記の事務局長、庶務、企画、会計の各部長1名の他、事務局次長2名、各副部長を2名選出する。事務局次長、副部長は、事務局長、部長を補佐し局長部長事故あるときは代行する。事務局長、事務局次長、各部長、副部長の選出を、理事及び理事経験者の中より会長が委嘱する。

7. 常任理事 (若干名) 理事及び理事経験者の中より会長が委嘱する。事務局、庶務、企画、会計の各部門に所属し事務を担当する。

8. 理 事 各回生より選出し会長が委嘱する。諸事項を協議し、本会と回生の連絡に当たる。
9. 校内理事（若干名） 母校の職員から会長が委嘱する。母校と本会との連絡に当たる。
10. 会計監査（2 名） 理事の互薦により選出し、総会の承認を得て会計監査に当たる。
11. 顧 問（若干名） 母校の現職の校長・教頭及び本会の会長であった者は顧問とする。また本会のために特に適当と認められた者は、理事会において推薦し、顧問とする。名誉顧問をおくこともできる。

第 5 条 （総会・入会式）

定期総会は、毎年度できるだけ早期に開催する。但し、必要に応じて臨時総会を開くことができる。新会員入会式は、卒業式の前日に行う。

第 6 条 （役員会）

会長は、必要に応じて常任理事会・理事会を召集する。

第 7 条 （事業）

本会は、次の事業を行う。

（1）会報及び名簿の発行

（2）その他本会の目的達成に関して必要と認められた事業

第 8 条 （決議）

本会の決議は、総会において、出席会員の過半数の同意を得てこれを定める。

第 9 条 （経費）

本会の経費は、入会金・終身会費並びに寄付金をもってこれに当てる。

（1）会員は、入会の際、入会金、終身会費を納入する。

（2）昭和 57 年度以前の会員は、終身会費を納入する。

第 10 条 （会計年度）

本会の会計年度は毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。

第 11 条 （届出事項）

（1）会員は、その住所・氏名に変更があったとき、その他一身上の異動のあったときは、直ちに事務局に通知する。

（2）本会に支部を置くことができる。

（3）会員が本会の後援を必要とする場合は、別紙に必要事項を記載の上、会長に届出、理事会の承認を得る。

第 12 条 会員及び客員の慶弔、その他の件については、別に決めた内規により行う。

付 則 この会則は平成 11 年 4 月 29 日から施行する。

改訂 平成 16 年 5 月 2 日

改訂 平成 28 年 5 月 15 日

第2部

懇 親 会 次 第

〈12:00～15:00〉

- 1 はじめのことば
- 2 実行委員長あいさつ
- 3 来賓紹介・来賓あいさつ
- 4 乾杯
- 5 アトラクション

(1) 甲府西高放送部「ふるさと」

(2) 井上かおり ミニコンサート
- 6 校歌斉唱
- 7 万歳三唱
- 8 おわりのことば

放送部

「伝えたい」

部長

田中美優

こんにちは。甲府西高校放送部です。この度は私たちに発表の場を与えていただき、本当にありがとうございます。

放送部の活動はあまり知られていないことも多いですが、お昼の放送をしたり、学校行事の音響・録画を担当したり、校内外のイベントで司会をしたりと、活動は多岐に渡ります。また、年に3回行われる大会にも参加しています。

大会にはいくつかの部門があります。自分で取材をして原稿を作り、声で伝える「アナウンス」、物語のワンシーンを切り取り、声で表現する「朗読」、事実を調査・取材し、番組にして伝える「ドキュメント」、脚本・キャスト・撮影・編集のすべてを自分たちで担当する「ドラマ」など、形はさまざまです。

しかし、どの部門にも共通する、取り組む上でとても大切なことがあります。それは、放送というものの本質でもある「伝えたい」という思いです。



作品を完成させるためには、伝える側の私たちの思いを、観てくださる方たちに伝えなければなりません。そのために、作品自体に「伝えたい」という強い思いを込める必要があります。どんなに頑張って作った作品でも、「伝えたい」という思いがこもっていなければ意味がありません。さらに、「伝えたい」作品を「伝わる」作品にするためには、思いをうまく形にしなければなりません。映像や音を駆使しながら、より分かりやすい作品にしようと工夫するのは非常に難しいことです。作品が仕上がるまでに何度も何度も壁にぶつかります。それでも、日々前に進む私たちはとても輝いていると思います。これからも、私たちの驚きや感動をもっと多くの人に伝えられるよう、頑張っていきたいです。

「受け継ぐ」

童謡歌手

井上 かおり



甲府西高等学校同窓会の皆様、こんにちは。

童謡歌手の井上かおりです。

このたび第111回同窓会に続き、ご縁を頂き第113回同窓会定期総会のアトラクションに歌声をお届けさせていただくことになりました。

私の歌声は、山梨の大自然、そして山梨の温かな人の中で育ったこと、何より、甲府高等女学校、甲府第二高等学校、甲府西高等学校と受け継がれた「西高魂」・「心」が活きていると感じております。

大先輩方から受け継いだ「心」を歌声に乗せて未来を支える多くの皆様に伝わることを信じてこれからも歌い続けてまいります。皆様にお逢いできました今日この日心を込めて務めさせていただきます。

音楽に心を委ねていただき、どうぞお楽しみくださいませ。

プロフィール

8月5日生まれ 山梨県

5歳で児童合唱団に入団し、8歳でレコードデビュー

13歳から5年間日本童謡協会推薦歌手として活動、日本童謡祭に出演

童謡、唱歌、アニメソングを歌い続け、現在発売されているCDは100枚を超える

2012年よりBaby公文音楽教材を担当

2010年からは子どものためのクラシックコンサートにてツアーコンサートを行う

日本工学院専門学校において14年以上非常勤講師として後進の育成につとめる

他に保育士としての経験を持つ

2014年「やまなし大使」就任

第2部

懇 親 会 次 第

〈12:00～15:00〉

- 1 はじめのことば
- 2 実行委員長あいさつ
- 3 来賓紹介・来賓あいさつ
- 4 乾杯
- 5 アトラクション

(1) 甲府西高放送部「ふるさと」

(2) 井上かおり ミニコンサート
- 6 校歌斉唱
- 7 万歳三唱
- 8 おわりのことば

放送部

「伝えたい」

部長

田中美優

こんにちは。甲府西高校放送部です。この度は私たちに発表の場を与えていただき、本当にありがとうございます。

放送部の活動はあまり知られていないことも多いですが、お昼の放送をしたり、学校行事の音響・録画を担当したり、校内外のイベントで司会をしたりと、活動は多岐に渡ります。また、年に3回行われる大会にも参加しています。

大会にはいくつかの部門があります。自分で取材をして原稿を作り、声で伝える「アナウンス」、物語のワンシーンを切り取り、声で表現する「朗読」、事実を調査・取材し、番組にして伝える「ドキュメント」、脚本・キャスト・撮影・編集のすべてを自分たちで担当する「ドラマ」など、形はさまざまです。

しかし、どの部門にも共通する、取り組む上でとても大切なことがあります。それは、放送というものの本質でもある「伝えたい」という思いです。



作品を完成させるためには、伝える側の私たちの思いを、観てくださる方たちに伝えなければなりません。そのために、作品自体に「伝えたい」という強い思いを込める必要があります。どんなに頑張って作った作品でも、「伝えたい」という思いがこもっていなければ意味がありません。さらに、「伝えたい」作品を「伝わる」作品にするためには、思いをうまく形にしなければなりません。映像や音を駆使しながら、より分かりやすい作品にしようと工夫するのは非常に難しいことです。作品が仕上がるまでに何度も何度も壁にぶつかります。それでも、日々前に進む私たちはとても輝いていると思います。これからも、私たちの驚きや感動をもっと多くの人に伝えられるよう、頑張っていきたいです。

「受け継ぐ」

童謡歌手

井上 かおり



甲府西高等学校同窓会の皆様、こんにちは。

童謡歌手の井上かおりです。

このたび第111回同窓会に続き、ご縁を頂き第113回同窓会定期総会のアトラクションに歌声をお届けさせていただくことになりました。

私の歌声は、山梨の大自然、そして山梨の温かな人の中で育ったこと、何より、甲府高等女学校、甲府第二高等学校、甲府西高等学校と受け継がれた「西高魂」・「心」が活きていると感じております。

大先輩方から受け継いだ「心」を歌声に乗せて未来を支える多くの皆様に伝わることを信じてこれからも歌い続けてまいります。皆様にお逢いできました今日この日心を込めて務めさせていただきます。

音楽に心を委ねていただき、どうぞお楽しみくださいませ。

プロフィール

8月5日生まれ 山梨県

5歳で児童合唱団に入団し、8歳でレコードデビュー

13歳から5年間日本童謡協会推薦歌手として活動、日本童謡祭に出演

童謡、唱歌、アニメソングを歌い続け、現在発売されているCDは100枚を超える

2012年よりBaby公文音楽教材を担当

2010年からは子どものためのクラシックコンサートにてツアーコンサートを行う

日本工学院専門学校において14年以上非常勤講師として後進の育成につとめる

他に保育士としての経験を持つ

2014年「やまなし大使」就任

特集

あの頃 あの時

恩 師 中 村 勤 先生

恩 師 高見澤 稔 先生

恩 師 樋 口 昭 三 先生

小 原 春 乃 (高3回生)

小 池 英 夫 (高31回生)

倉 田 貴 根 (高31回生)

横 田 はつき (高57回生)



二つが一つになる

恩 師

中 村 勤 先生

私が甲府二高に赴任したのは、西高に移行する二年前でした。それまで女子高にいたことがなかったので不安でした。女子ばかりの学校でうまくやっていけるだろうか、生徒はなついてくれるだろうか。三年八組の受持になり、取り越し苦労だったことに気付いたのは間もなくでした。二年に迫った学校の雰囲気はそれほど深刻なものではなかったようです。それより、二高の生徒として、気持ちを引き締めて悔いのないようにと努めているようでした。

新しい校舎の建築も始まり、引越しの方法や学校の運営について話し合いが始まり、いよいよ新しくなるんだという気分が強まってきました。新しい器に新しい魂を盛り込む気持ちが必要です。その時の二高生の気持ちは複雑なものだったでしょう。甲府二高というものが無くなってしまうのか、何か置き忘れてきたものはないのか迷ったことと思います。同窓会があります。甲府二高が甲府西高とただ接続したのではなく、二高の良き伝統が西高に引き継がれるのです。

しかし、私には不安になることが起きました。西高の最初の入試の合格発表の日でした。その日は雨が降りました。今まで見られなかった男子生徒が発表を見にきました。西高に合格した男子の気持ちが顔に現れて気の毒に見えました。中には傘を下に強くたたいている人もいます。新入生をいかに指導したら良いのか迷いました。同窓会の融合は、将来どうなるのか心配しました。その後の同窓会の様子は聞いていませんが、男子の入った会の運営は大変だったと思いますが、絆をしっかり結んで発展のため頑張ってください。

卒業後、同窓生として顔を合わせ、おしゃべりに興じること位有意義で楽しいことはありません。私も八十六になりました。八十の時に同級会が解散になり、寂しいものです。家にいてなんとか楽しみを見付け、したいことをしています。「日々是好日」の毎日です。



今徒然に思うこと

恩 師

高見澤 稔 先生

甲府二高に来て四年目、前年に引き続いて3年の担任になった。それが3年5組であった。だから担任した生徒諸君(嬢)とは僅か1年の付き合いと言うことになる。

原稿依頼を受け、当時の事を思い出す為に卒業アルバムを開いてみた。新谷由規子さんから渡辺正美さんまで44名。その前に副担任の吉野祥子先生が載っていた。

都留、谷村、峡北、韮崎を経て甲府二高に来た私にとって、初めての女子高だった。都留は定時制、谷村は普通科の他工業科、商業科があり、峡北は農業科があった。韮崎は共学であった。それ故か、甲府二高には今迄とは違った独特の雰囲気を感じた。

先ず”良い子”の集団であった。お互い牽制し合って”良い子”を演じていたのか、本来”良い子”だったのかは判らないままに終わった

何を言わなくてもよく掃除した。当時木造校舎の廊下を競って磨くのが流行っていたような気がする。

共学の学校では体育着の長いトレパンを着用するのが普通であるが、甲府二高ではブルーマーであった。千数百人、一人2本ずつ二千数百本の太ももが校庭に並ぶ姿は眩しく壮観であった。

当時は稀になっていた”仰げば尊し我が師の恩”と歌って貰い、蛍の光を歌って送り出してから、今でも時々接触のある人、年に一度の年賀状の人、卒業以来全く疎遠にしている人など様々であるが、皆何処かで夫々の人生を生きているものと思っている。

同じ職場で一緒に勤めた人もいる。結婚式の案内を貰い出席した人もいる。今、月に一度通っている病院の薬剤師も担任した5組の教え子さんだ。

あれから四十年余り、私も傘寿を過ぎて数年が経った。風が吹けば飛びそうと言われた細身も老年太りで人並みに、黒々ふさふさの髪の毛も殆ど白くなり、薄くなるなど大きく変わった。

17、8歳だった5組の少女達も同じように歳月を重ね今や還暦、様々な人生経験を積み堂々たるおば様に変貌しているのだらうなどと想像してみる。

卒業アルバムを見ながら、しばしいろいろと試してみた。

プロフィール

甲府一高・山梨大学数物科卒業
県下8高校、県教委2課に勤務、甲府南高校長、県高等学校長協会会長、県高等学校囲碁連盟会長など
県退職後、山梨情報専門学校長、日本棋院山梨県紫玉支部長など
文部大臣教育者表彰、県政功績者表彰、瑞宝小綬章受賞
趣味は囲碁、ゴルフ、人間観察



甲府二高での思い出

恩 師

樋 口 昭 三 先生

私が数学の教員として甲府二高に勤務したのは、昭和43年4月から昭和50年3月までの7年間でした。(年齢で40から46才)その最後の年に総合選抜のため甲府二高から甲府西高に名前が変わり、校舎も現在の処に移転新築されました。

私は昭和24年から平成元年まで40年間、県立高校の教員を勤め幾つもの学校を経験しましたが、その中で甲府二高が一番印象に残っています。

その思い出の1つに、当時学園祭の催しの中に「TPアワー」がありました。それは教師と生徒が一緒になって演劇をする催しです。毎年行われましたがその中で私が主役に抜擢^{せりふ}されたことがありました。1時間あまりの劇では、主役の台詞は膨大です。演劇など全く経験がないので、放課後や家へ帰ってから台詞の暗記や練習を懸命にしたものでした。そして無事に終わることが出来好評でした。生徒にとつては演技の上手下手よりも、教師が生徒と一緒に劇することに歓声をあげたのでしょう。このような催しは当時の甲府二高でなければ出来ないことであり懐かしい思い出です。

平成元年定年退職した後は、第二の人生として自分の好きなことをやり、出来たら他人^{ひと}に役立つこと(社会奉仕?)もしようと考えました。

地域(甲府市北新地区)の文化協会や老人クラブの役員を引き受け、パソコンでの資料作りに忙しい時もありました。パソコンではインターネットでの囲碁対局もしています。

またホームページを作成して、旅行の記録や絵画作品の紹介等のページを毎年更新してきました。然し昨年88才の米寿を超えてもの忘れが多くなったので、こらで役職は後継者^{ひと}にお願いし、H.P.の更新も終わりにしようと考えています。

機会がありましたらH.P.をご覧ください。<http://www4.plala.or.jp/Syo>(SyoのSは大文字です)

プロフィール

出生 昭和三年、甲府市樋口家5人兄弟の末子として生まれる(名前の昭三の由来)
 学歴 市立湯田小学校、県立甲府中学校、国立東京高等師範(現在の筑波大学)数学科
 職歴 (昭和24年県立高校教員に採用される、赴任順に) 甲府工業、甲府一高、市川、機山工業、甲府二高、峡北、甲府東、都留、第一商業(9つの高校を歴任)
 趣味 囲碁、カラオケ等(但し、最近米寿を超えてから能力が次第に衰えてきた)



「4世代お世話になっています。」

小 原 春 乃

(高3回生)

一昨年孫が西高に入学しました。西高は入学試験が大変だということで、孫は一生懸命勉強していた様でした。私は実家の母(平成18年に97歳で亡くなりました。)から始まって、私、娘2人、孫で甲女、二高、西高と4代にわたってお世話になる歴史を思い、孫が西高を選んでくれた事を大変うれしく思いました。母は大正12年の大震災の日が9月1日の2学期始業式の日だったこともあってかなりの衝撃を受けたりしく度々その時の話を聞かされました。私は昭和20年4月、甲府高女に入学し、4月、5月だけ勉強し6月以降は、現在の国玉町あたりの農家への勤労奉仕でした。そして7月6日の甲府空襲で焼失した甲府高女の校舎を、寿町を通って竜王町(現在の甲斐市)の母の実家まで歩いて行った7日の朝、涙ながらに眺めたのを憶えています。1945年の終戦後、平和な世を70年余り送ることができ、ありがたい事だったと思う一方で希望する高校に入学することができた孫達の今後はどうなっていくのか心配しています。私は国民学校(小学校)の5年生になった頃、父から「女学校の試験を受けるように。必ず甲府高女に入学できるよう努力すること。」と言われました。娘達二人の時は高校入試が総合選抜でどの高校に入れるのか判りませんでした。幸いに二人とも西高に入る事ができました。こうして我が家では運も味方してくれて4代にわたり甲府西高にお世話になってきました。

同窓会の行事などに特にお手伝いする事もせず長い年月過ぎてしまった事を時に、申し訳なかったというような思いを抱くこともありました。大勢のすばらしい先生方や、今も繋がりのある親しい友人にも恵まれ、穏やかにそれぞれの時代を過ごしてこられた事に感謝すると共に、母校の今後の発展、そして、これから巣立って行く皆様方の幸せな人生を心から願っています。

母 清水たね代(旧姓興石)甲府高女24回生

私 小原春乃(旧姓清水)高3回生

娘 谷川佐知子(旧姓小原)高37回生

孫 谷川友菜 西高3年生

プロフィール 甲府市在住(昭和26年3月甲府二高卒業)
現在は地域自治会の経理部及び老人クラブの仕事などをお手伝いしています。
娘達の家族とは現在同じ敷地内に住んでおります。



首都圏甲府西高会

小 池 英 夫

(高31回生)

平成25年4月に甲府西高2期生(高校31回)同期の神宮司易君が山梨県東京事務所に次長として赴任されたのを機に、私との交流が再開しました。その中で「西高(共学)の卒業生の会をつくれないか」という話になり、私の仕事つながりでご縁のあった1期生の鈴木めぐみさん(旧姓塩野)にお声がけし、3人で食事を取りながら話したのが、いま思うと「首都圏甲府西高会」発足に向けたキックオフだった気がします。

そのころ、同窓会東京支部のことはもちろん知っていましたが、首都圏にいる私たちにとっては高校卒業以来の「同窓」話だったため、まずは「西高(共学)」生を集めようということになりました。3人に加えて1期生の西原妙子さん(旧姓小尾)、遠藤芳英さん、2期生の吉呉努さん、4期生の山本好男さん、7期生の小澤雅仁さんが発起人となり、平成26年11月、東京・銀座の東武ホテルで記念すべき第1回交流会が開かれました。

しかし、手探りで準備した第1回の出席者はわずか15人でした。そこで「このままでは…」という危機感から、出席者で1期生の米山正樹さんに事務局を担っていただくことにし、世話人会(という飲み会?)を2~3カ月ごとに開催するなど同窓生探しを本格化させた結果、27年の第2回は41人、昨年28年の第3回は64人と、少しずつですが「会」らしくなってきました。また、この間、同窓会東京支部とも交流が始まっています。

発足から4年目を迎える「首都圏甲府西高会」。共学同窓生の輪を広げる場として、首都圏在住の方々に気軽に参加していただければと思います。もちろん山梨からの参加も大歓迎です。



プロフィール	1979年	甲府西高卒業	NHK入局
	1985年	学習院大学卒業	
	2012年	報道局政治部長	
	2015年~	報道局編集主幹	



「今に生きる西高時代の培い」

倉田 貴根

(高31回生)

山梨県は全国に先駆けて移住相談窓口を東京有楽町の「NPOふるさと回帰支援センター」内に「やまなし暮らし支援センター」をオープンさせたのは4年前の6月。私はそこで、山梨専門移住相談員をしている。山梨県に移住を検討している方の相談にのり、県内の地域や人と相談者を繋ぐ役割がある。仕事や住居、自治体の支援策や山梨の独特な風習などについても相談にのる。移住の不安を払拭し、スムーズに山梨への移住を後押しすることが私の仕事だ。2014年そして2016年には、山梨県が移住希望地ランキングNO.1を獲得した。首都圏の方から見て山梨は魅力がいっぱい詰まった地である。私は毎日、故郷と首都圏とを繋ぐ橋渡し役である「移住相談員」として忙しい日々を送っている。



そんな日々の業務の中で西高時代の体験が大きく影響していると思える出来事がある。

高校2年の夏、当時バレー部に所属していた私は甲府を訪問していたドイツのスポーツ少年団と親睦バレーをすることになった。全校生徒に呼びかけはしたものの、名乗り出がなかったため、バレー部にお鉢が回ってきたというものだ。そこでのドイツの人々との出会いから、世界への憧れを抱き始め、当時国際線のある日本航空へ一直線の学生時代を歩むこととなった。それまでの私は筑波大学への進学と教職への淡い夢を抱いていたが、一気に方向転換へと導かれた出会いであった。

世界を見たいがばかりに入社した日本航空では、ファーストクラスでお客様の背後から要望の有無を判断する必要に迫られたり、クレームをお持ちの方を最後にはグッドコメントをいただけるようなサービスを徹底的に叩き込まれた。それが今、相談員の業務に非常に役立っている。相談者の声にならない声を読み取り、その方の人間性を見抜き、山梨の誰を紹介しようかと考える思考回



路はまさにそのものである。

人口減少が進む山梨県のために少しでもお役に立てるよう、これからも「移住者＝山梨で一緒に暮らしていく人達」を応援していくつもりだ。皆様も機会があったら、是非お立ち寄りください。お待ちしております。

プロフィール

1960年甲斐市生まれ。敷島中学校、甲府西高等学校、学習院女子短期大学英語学部卒。日本航空にて国内線・国際線客室乗務員として勤務。ヨーロッパ・中近東・東南アジア・オセアニア・アメリカ線乗務する。ニチイ学館にて講師。医療事務・介護事務他病院でのマナー講座等も行う。2015年から「やまなし暮らし支援センター」で山梨県移住相談員。年間2000件の相談を受け、窓口を通じ延べ500人の方の移住を後押しした。趣味は社交ダンス。休日にはダンスパーティに通い、リフレッシュするのが楽しみだ。



“TEAM”

横田 はつき

(高57回生)

自分の人生で、一番長く続けてきたものは、「バスケットボール」だ。バスケの楽しさは、スピード感やライブ感、何より、TEAMという所だと思っている。仲間と共に「勝つ」と、より一層楽しい。

今思うと、西高時代もそうだった。他の部活もあり、体育館の4分の1を使って練習に励んだ。当時女子バスケ部は人数が少なく、男子バスケの顧問であった逆瀬川先生にお願いして男子の練習にまぜて頂くこともしばしばあった。練習すればするほど、勝てば勝つほど、仲間、TEAMを感じることができるようになってきた。

平成25年10月、山梨クィーンビーズがメインスポンサーの撤退により、存続が危ぶまれているというニュースがあった。小中高時代、チケットを買って見に行ったチーム。大学時代、沢山練習試合をしたチーム。そんなチームが無くなるのは、山梨県民として寂しいことだった。何かできないか。そんなことを思っている最中、声をかけていただき、選手としてチーム再建のお手伝いをすることになった。初期のメンバーは8名。その後選手も増え、Wリーグに復帰したが、有名選手が多数いるトップリーグで同等に戦うのは厳しいものがあつた。自分自身はプロバスケット選手としてだけでなく、小学校教諭で学担として仕事をこなしながらの日々。心が折れそうになっていた。

そんな時、高校時代の友人や、山梨県民の方から応援のメッセージやスポンサーのお話しがたくさん届いた。自分一人で戦っている訳では無かったのだと、改めて、心強く思った。

チームは年々補強を繰り返し、徐々に強くなっていると感じる。しかし、まだまだ足りない。私たちは、応援してくれる人がいる限り、精一杯その気持ちに応えたい。また、子どもたちにももっとバスケの楽しさを知って欲しい。

そして、バスケの楽しさを教えて頂いた我が母校には、心から感謝の気持ちを伝えたい。



プロフィール 2005年 甲府西高卒業 東京学芸大学入学
2010年～現在 山梨県公立小学校勤務
2015年～現在 山梨クィーンビーズ所属

がんばっている在校生たち

平成28年度

～関東・全国大会出場および活躍の記録～

- 陸上 部** 関東高等学校陸上競技大会 出場(男子400mH、男子4×100mR、男子棒高跳、女子4×100mR、女子走高跳)
関東高等学校選抜新人陸上競技大会 出場(男子100m、男子400m、女子3000m、女子1500m)
関東高等学校駅伝競走大会 女子出場
- 体 操 部** 関東高等学校体操競技大会 個人出場
- 新体操部** 関東高等学校体育大会 新体操女子 個人種目別リボン 個人出場
- 水 泳 部** 関東高等学校選手権水泳競技大会 出場、全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 出場
- 吹奏楽部** 西関東アンサンブルコンテスト サクソフォン五重奏 銅賞
山梨県芸術文化祭吹奏楽部門 芸術文化祭賞(来年度、宮城で行われる全国総文祭出場権獲得)
- 音 楽 部** 全日本合唱コンクール関東支部大会 銅賞
- 囲 碁 部** 全国高等学校総合文化祭 囲碁部門 出場
全国高等学校囲碁選手権 出場
関東囲碁選手権 出場(団体戦)
- 将 棋 部** 全国高等学校総合文化祭 将棋部門 出場
関東高等学校文化連盟将棋大会 4位
全国高等学校文化連盟将棋新人大会 出場
- 文 芸 部** 全国高等学校総合文化祭 文芸部門 参加
関東地区高校生文芸大会栃木大会 短歌部門 参加
山梨県芸術文化祭 文学部門 小説の部 芸術文化祭賞(来年度、宮城で行われる全国総文祭出場権獲得)
- 放 送 部** NHK杯全国高校放送コンテスト 出場(アナウンス部門、朗読部門、テレビドキュメント部門、創作テレビドラマ部門)
全国高等学校総合文化祭 放送部門 朗読部門 出場
山梨県芸術文化祭 放送部門 朗読部門 優秀賞(来年度、宮城で行われる全国総文祭出場権獲得)

～卒業後の進路を追って～

5年間の進路状況(現役のみ)

区 別		平成28年度 (6クラス)	平成27年度 (7クラス)	平成26年度 (7クラス)	平成25年度 (7クラス)	平成24年度 (7クラス)
大学	国 立	91	131	102	129	121
	公 立	38	59	34	61	47
	私 立	321	495	382	320	370
大 学 校		1	2	2	0	2
短 期 大 学		4	12	11	1	4
各 種 専 修 学 校		11	5	5	5	11
海 外 の 学 校		0	0	0	0	0
就 職		0	0	0	1	1

平成29年3月卒業生(227名)の合格状況

(数字は人数)

■公立4年制大学 129名(通へ数)				
山 梨 大	31	秋 田 大	1	
山梨県立大	9	茨 城 大	1	
東 北 大	8	宇 都 宮 大	1	
静 岡 大	6	群 馬 大	1	
東京学芸大	5	東京海洋大	1	
千 葉 大	4	お茶の水女子大	1	
信 州 大	4	東京外国語大	1	
名古屋大	4	東京農工大	1	
横浜市立大	4	一 橋 大	1	
都留文科大	4	新 潟 大	1	
筑 波 大	3	富 山 大	1	
横浜国立大	3	神 戸 大	1	
首都大東京	3	奈良女子大	1	
静岡県立大	3	鹿 児 島 大	1	
長 野 大	3	釧路公立大	1	
室 蘭 工 大	2	埼玉県立大	1	
埼 玉 大	2	千葉保健医療大	1	
電気通信大	2	長岡造形大	1	
金 沢 大	2	愛知県立大	1	
高崎経大	2	大阪市立大	1	
新潟県立大	2	神戸市外大	1	
北見工大	1	長崎県立大	1	

■私立4年制大学 321名(通へ数)				
日 本 大	20	東京都市大	5	
専 修 大	15	大妻女子大	4	
法 政 大	15	共立女子大	4	
神奈川大	13	上 智 大	4	
明 治 大	12	昭 和 大	4	
中 央 大	11	昭和女子大	4	
駒 澤 大	10	日本女子大	4	
山梨学院大	9	武 蔵 野 大	4	
芝 浦 工 大	8	山梨英和大	4	
青山学院大	7	健康科学大	4	
津 田 塾 大	7	静岡理工科大	4	
東京理大	7	同 志 社 大	4	
東 洋 大	7	高崎健康福祉大	3	
東京工科大	6	工 学 院 大	3	
東京女子大	6	国 士 館 大	3	
明治学院大	6	実 践 女 子 大	3	
立 教 大	6	順 天 堂 大	3	
早 稲 田 大	6	東 海 大	3	
桜 美 林 大	5	東京電機大	3	
北 里 大	5	立 命 館 大	3	
杏 林 大	5	そ の 他	57	
東京薬大	5			

「ようこそN-stageへ」

満開の桜とさわやかに晴れた青空の4月8日、
新入生 238名が新たに仲間に加わりました。



第68回山梨県高等学校総合体育大会

高校総体 チーム西高 ～心ひとつに～

第68回山梨県高等学校総合体育大会(平成28年5月11、12、13日)

本校の全運動部が16種目に出場しました。
仲間との絆、支えてくれた家族への感謝を胸に、
日々の練習の成果を発揮しました。
陸上部・体操部が関東大会へ出場。



vol.45

2016.7 甲府西高情報誌

西高のステージへ!

n-stage

山梨県立甲府西高等学校
Kofu Nishi High School

高校総体
鳳凰祭
特集号

西高には
仲間がいる

特集1

第65回・鳳凰祭
WESTAR WARS ～6色の覚醒～
県下最大規模の学園祭! 熱は2日間をお届けします。

特集2

第68回山梨県高等学校総合体育大会
本校運動部の魅力を紹介します。



オープンスクール ～ようこそ西高へ～

甲府西高校を会場として「オープンスクール」を開催し、中学生とその保護者あ
らゆるご参加いただきました。中学生のみなさんには体験授業と本校在校生との懇談会、
と校舎内見学というスタイルで行いました。部活動の自由見学も行われ、短い時間
生活がイメージできたのではないのでしょうか。



西高校の明るい自由な様子
が伝わった。西高の楽しそう
な雰囲気が伝わって来ます。

体験授業が面白かった。本
格的な授業を受けられ、

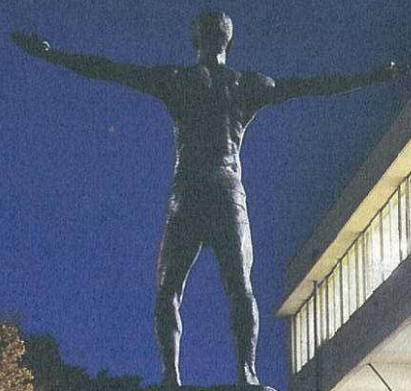
活動を取り入れた授業がど
ても楽しかった。

第65回 鳳凰祭

WESTAR —6色の覚醒— WARS

6/30 & 7/2 の三日間、県下最大規模の西高学園祭「鳳凰祭」が開催されました。初日のコラニー文化ホールでの発表と、2日目の一般公開日を合わせて約2,000人の方々がご来場くださいました。ありがとうございました。全力で駆け抜けた西高生の2日間でした。

西高の秋 進路実現に向かって



第113回 定期総会実行委員会

実行委員長 窪田淳子(高26)

副実行委員長 入倉 要(高36) 宝方みづほ(高16) 前田洋子(高26)

実行委員 木浦原秀子(高26) 今津信子(高26) 中村一枝(高26) 厚芝好美(高26)
樋川寿美(高26) 松田いづみ(高26) 樋口順子(高26) 伊東栄子(高26)
高根正美(高26) 小田切厚美(高26) 山下由美子(高26) 丸山みえ子(高26)
望月久美子(高26) 鶴田みつ子(高26) 田中満寿美(高26) 望月美知子(高26)
齊藤はるみ(高26) 関口和子(高26) 前橋富子(高26) 内海仁美(高26)
山本多鶴子(高26) 伊東真由美(高26) 梶原 薫(高26) 大森美智子(高26)
石原千恵美(高26) 遠藤桂子(高26) 八巻由規子(高26)



編集後記

甲府西高等学校同窓会 第113回定期総会の会誌発行にあたり、ご指導下さった多くの方々に感謝申し上げます。恩師、同窓生、先生方には、お忙しい中ご協力頂きありがとうございました。また、多くの企業、同窓生の皆様から、広告、協賛等をお寄せ頂き、心よりお礼申し上げます。

甲府高女、甲府二高、甲府西高と、世代を越えた「伝統の輪」をひろげ、更に今回は、甲府西高機関誌「N-stage」からも引用させて頂き、現在の西高生の若い息吹を感じられるようにしました。尚、校正を重ねて参りましたが、不行き届きの点がありましたらご容赦下さい。

母校のますますの発展と、同窓会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

会誌担当一同

総会テーマ

ひろげよう! 世代を越えた「伝統の輪」～今ひとつになるこの瞬間^{とき}を胸に～

特集テーマ

あの頃 あの時

表紙と裏表紙

版 画 「My favorite things」 (私の好きなもの)、「Rafiki」 (ともだち)

内 海 仁 美 (高26回生)

テーマ・書

浅 川 充 子 (高16回生)

山梨県立甲府西高等学校同窓会 第113回定期総会誌
平成29 (2017) 年 5月14日発行

編集・発行 第113回定期総会実行委員会
〒400-0064 甲府市下飯田4-1-1
TEL・FAX: 055-228-5161
印刷・製本 株式会社 日新宣伝用品社
〒400-0049 甲府市富竹2-3-40
TEL: 055-221-6440

第113回 定期総会実行委員会

実行委員長 窪田淳子(高26)

副実行委員長 入倉 要(高36) 宝方みづほ(高16) 前田洋子(高26)

実行委員 木浦原秀子(高26) 今津信子(高26) 中村一枝(高26) 厚芝好美(高26)
樋川寿美(高26) 松田いづみ(高26) 樋口順子(高26) 伊東栄子(高26)
高根正美(高26) 小田切厚美(高26) 山下由美子(高26) 丸山みえ子(高26)
望月久美子(高26) 鶴田みつ子(高26) 田中満寿美(高26) 望月美知子(高26)
齊藤はるみ(高26) 関口和子(高26) 前橋富子(高26) 内海仁美(高26)
山本多鶴子(高26) 伊東真由美(高26) 梶原 薫(高26) 大森美智子(高26)
石原千恵美(高26) 遠藤桂子(高26) 八巻由規子(高26)



編集後記

甲府西高等学校同窓会 第113回定期総会の会誌発行にあたり、ご指導下さった多くの方々に感謝申し上げます。恩師、同窓生、先生方には、お忙しい中ご協力頂きありがとうございました。また、多くの企業、同窓生の皆様から、広告、協賛等をお寄せ頂き、心よりお礼申し上げます。

甲府高女、甲府二高、甲府西高と、世代を越えた「伝統の輪」をひろげ、更に今回は、甲府西高機関誌「N-stage」からも引用させて頂き、現在の西高生の若い息吹を感じられるようにしました。尚、校正を重ねて参りましたが、不行き届きの点がありましたらご容赦下さい。

母校のますますの発展と、同窓会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

会誌担当一同

総会テーマ

ひろげよう! 世代を越えた「伝統の輪」～今ひとつになるこの瞬間^{とき}を胸に～

特集テーマ

あの頃 あの時

表紙と裏表紙

版 画 「My favorite things」 (私の好きなもの)、「Rafiki」 (ともだち)

内 海 仁 美 (高26回生)

テーマ・書

浅 川 充 子 (高16回生)

山梨県立甲府西高等学校同窓会 第113回定期総会誌
平成29 (2017) 年 5月14日発行

編集・発行 第113回定期総会実行委員会
〒400-0064 甲府市下飯田4-1-1
TEL・FAX: 055-228-5161
印刷・製本 株式会社 日新宣伝用品社
〒400-0049 甲府市富竹2-3-40
TEL: 055-221-6440